

平成25年度 事業計画の概要

世界最高水準の安全性の追求
～たゆまぬExcellenceをめざして～

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



.運営方針(24年度と同じ)

1 . JANSIのミッション

2 . ミッション達成のための取組み



1. 安全性向上対策の評価と提言・勧告及び支援

(1) シビアアクシデント(SA)対策

- ✓ 「世界との差マトリックス」を、国内外の最新知見を基に更新。
- ✓ 検討課題の優先付けのガイドラインを作成。
- ✓ 事業者の安全性向上計画をレビュー。
- ✓ 上記作業を通じて、技術的な検討が必要なものはタスクフォースを立上げ、安全性向上に有効と考えられる対策について事業者に提言。

(2) 設計基準を超えない事象への対応として規制体系等の調査

(3) 安全性評価のための整備

- ✓ 引き続き、日米のPRAの比較作業を実施し、必要な場合品質向上のための検討を実施。
- ✓ 国内のリスク情報活用技術の高度化を図る一環として、EPRI等の海外情報の活用方策を検討。



(4) 包括的な自主安全評価書の作成に向けた準備

(5) 高経年化対策の充実

- ✓ PLM-QAデータベースを更なる拡充。
- ✓ 日本版SALTOピアレビューの試行を目指し、必要なガイド等を整備。

(6) 安全性の向上に係る規格等の整備

- ✓ 引き続き、原子力安全確保のための基本的な考え方の整備を支援。
- ✓ 地震、津波、溢水、火災PRA手法、レベル1、PRA品質確保及びシビアアクシデント管理に係る規格整備を支援。

(7) 敷地内断層評価手法の検討

- ✓ 引き続き、検討委員会において、敷地内断層評価手法の高度化及びプラント直下の断層変位に対するプラントの耐性評価等を検討。



2. ピアレビューによる原子力施設の評価と提言・勧告及び支援

(1)ピアレビュー

- ✓ 原子力発電所3ヶ所、プラントメーカー3ヶ所、試験施設1ヶ所についてピアレビューを実施。また、原子力発電所1ヶ所をフォローアップレビュー。
- ✓ JANSIピアレビューについて、レビュープロセスの改善によるピアレビューの質の向上及びレビュー分野の拡大(6分野から9分野)を図り、WANOとの同等性の認定を受けるための手続きを進める。
- ✓ 平成27年度までにJANSI内に2チーム体制を構築。また、チームリーダー、レビューアの教育訓練を強化。

(2)産業界として目指すべき高い水準の提示

- ✓ 産業界として目指すべき高い水準(Standards of Excellence)として良好事例集やガイドラインの提示を進める。



(3)テーマ別レビュー

- ✓ 進め方のガイドラインを作成し、基本的な進め方を確定。

(4)原子力施設運営状況の評価及び改善支援

- ✓ SRを窓口とした支援活動を試行し、その定着化に向けて基盤となる業務システム及び支援体制を確立。

(5)安全文化アセスメントの改善強化

- ✓ 福島第一発電所事故の教訓を反映した安全文化7原則を軸として、診断結果の経営層への報告、実施後のフォローアップによる改善・強化。
- ✓ 4 発電所に燃料加工メーカー1社とプラントメーカー1社を加えた6事業所で現場診断を実施。
- ✓ 7事業所に対して安全キャラバンを実施。可能な限り事業所にカスタマイズした内容としてより実効性を向上。



3. 海外機関との連携

(1) 国際アドバイザーグループ

- ✓ 国際アドバイザーメンバーとの意見交換を進め、JANSIの経営戦略や事業計画の策定に反映。

(2) 技術評価グループ

- ✓ JANSI が事業者に対して行う評価、提言・勧告内容について、必要に応じて、技術評価メンバーのレビューを受け、JANSI の技術的判断をより確実化。

(3) INPO・WANOとの連携

- ✓ INPOと長期的・戦略的関係を構築するための協定締結に向けた準備。
- ✓ WANOと、ピアレビューワーカーの相互派遣、技術支援訪問(TSM)の協力など、連携強化。



4. 事業者及びJANSIの活動を支える基盤業務

(1) 人材育成

- ✓ 人材育成を体系的、効果的に行うため、対象を「事業者」、「協力会社」、「JANSI」と区分し、それぞれの目標を明確にした上で、展開。
- ✓ 「事業者」への支援業務では、経営層研修とSA 人材育成に関する事項を、特に優先して取組み。
- ✓ 「協力会社」では、協力会社の人材育成の実態調査を行い、支援の全体構想を取り纏め。
- ✓ 「JANSI」では、必要な技量、到達レベルの明確化し、人材育成計画の作成して実施。



(2)OE情報の収集・分析・評価・活用

- ✓ トラブル等OE情報の提供の有効性を高めるため、対策の検討に重点を置いて活動。
- ✓ OE情報の分析に基づき抽出された重要技術課題は、勧告等の文書を発行。

(3)プラント支援

- ✓ 原子力施設の保安活動の充実・改善するため、QMS活動の支援、ヒューマンファクター分析の活用、RCA活動の推進支援を実施。

(4)技術支援

- ✓ 安全性向上・ピアレビュー充実のためのデータベースとして、電力共通技術基盤を整備・充実。
- ✓ 保全情報ライブラリシステム、現場技術者ネットワーク活動の促進、状態監視技術の向上、継続的な情報収集により、データベースを充実。



(5)民間規格の整備・促進

- ✓ 学協会規格類協議会の「原子力安全の向上に向けた学協会規格の整備計画案(中間報告)」を踏まえ、原子力の安全性、信頼性を向上させるための課題を抽出し、必要な提案や会議体の設置を行いながら、学協会規格の整備支援を推進。
- ✓ 規格整備の一層の迅速化を図るため、学協会での規格案審議の推進役を担っていく。

